



多摩市立瓜生小学校

# 瓜生小だより

令和元年度 第8号

令和元年10月31日

## 点字ブロックが見えていますか

校長 吉田 正行

ある新聞の投稿記事を読みました。内容は、「白杖をつきながら歩いてきた男の人が、歩道に停車してあった工事用のトラックに激突する瞬間を見てしまった。その後、男性はまるで何事もなかったかのようにトラックを迂回してそのまま行ってしまったが、よく見るとそのトラックは点字ブロックをまたいで停められていた。私たちは点字ブロックが本当に見えているのだろうか・・・」というものです。

私もこの記事を投稿した方と同じような場面に最近遭遇しました。目の不自由な方が白い杖を頼りに歩いていて、ブロックの上に停めてある自転車にぶつかる瞬間を目の当たりにしたのです。けがをしたのではないかと心配で声をかけると、「大丈夫です。以前は同じようにぶつかって、転んで腕を骨折したこともあります。友達の中には転んで歯も折ってしまった人もいますから・・・」と苦笑いをしていました。怒ることもなく、これは仕方ないことだと諦めている様子を見て、複雑な気持ちになりました。

そこで、通勤や出かける時に駅前の歩道や店の前を注意して見てみました。すると点字ブロックが劣悪な状態にあることがよく分かりました。幅が広い歩道なのに点字ブロックがマンホールのふたをコの字形に迂回するようになっていたり、バス停でバスを待っている人たちが点字ブロックの上に平然と並んでいたり。これでは「目を閉じて点字ブロックを頼りに歩いてみて」と言われても、怖くて歩けないでしょう。

また、駅の改札の前で大学生と思われる若い人が数人集まっている場面にも出くわしました。その人たちは点字ブロックの上だということに気づいていないようで、話に夢中です。そこに白い杖をついた女性が近づいてきました。その方は前に人がいる気配を感じ取り、申し訳なさそうにその集団の前で立ち止まっていました。注意しようかと迷っていると、その中の一人が気づいてみんなに声をかけ、その人はなんとか点字ブロックの上を通ることができました。



点字ブロックの上にとめられた自転車

私たちの社会には、いろいろな人が生活しています。それぞれが楽しく、安全に暮らせることが大切です。ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックの開催で多くの外国の方々が日本に来ています。中には障がいのある方もいます。その人たちにとっても日本は生活しやすい国になっているでしょうか。子供たちがそれぞれの違いを認め、相手の立場を理解し、思いやりをもって行動できる人に成長すれば、日本だけでなく世界中を豊かにしていくことになると確信しています。

### 【生活習慣のふりかえり 10月】

□に各自のふりかえりを記入する

あいまつ へんじ  
挨拶・返事

自分から気持ちよい挨拶や返事をしましょう。……………

やさしいことば  
優しい言葉

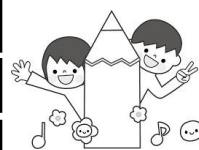
優しく心が温まる言葉づかいで話しましょう。……………

がくしゅう どくしよ  
学習・読書

家庭での学習や読書の時間を決めて取り組みましょう。…

しんせつ こうどう  
親切な行動

親切な行動、助け合いを毎日欠かさず実行しましょう。…



◎…よくできた ○…ときどきできた △…あまりできなかった

◆各自の一か月のふりかえりをご家庭でも話題にさせていただきよう願います。